R E T I E　　B E L G I U M

第３１回
ヨーロッパ・キリスト者の集い
証と感想

信仰生活にとって
なくてはならない存在

彦田理矢子
エディンバラ日本語教会

去年もそうでしたが、今年も最終日には、礼拝中に号泣している自分がいました。礼拝の盛永先生のメッセージが熱くって素晴らしかったこともちろんありますが、大会中に語られた全ての牧師先生たちのメッセージを通じて感じた伝道の大切さなどがストンと自分の中で落ちたことや、何より、私自身は信仰者としてはまだまだ超未熟者ですが、参加しているキリスト者の皆様の真摯な祈りや賛美の姿勢を通じて、聖霊様の働きを確かに強く感じることで、この大会に来ると感極まるのです。

ヨーロッパの日本人キリスト者のコミュニティの方達は皆実に素敵で、毎回色々な方々にお会いするのが楽しくてしょうがないです。日本に住んでいる人達にもこういう素敵な人達がいることをもっと知ってもらいたいと思います。

大会を通して、自分の個人的な課題、教会員としての課題に解決の糸口をもらうこともできました。今は自分の信仰生活にとって、年１度のこの集いはなくてはならない存在です。もちろん来年のプラハ大会も参加する気満々です。主に大いに感謝して。

祈りは聞かれるか？

増谷啓
シュトゥットガルト日本語教会

毎年素晴らしい「ヨーロッパ・キリスト者の集い」ですが、今年は一味違って特別に意義深いものとなりました。

と言うのは、10年来の仲であるXさんがイエス・キリストを信じる決心をしたからです！私はXさんの救いを10年以上祈ってきました・・・と言えばカッコ良いのですが、実はそうでもありませんでした。「いつか神様はXさんを救いに導いてくれる」と確信はありましたが、過信ゆえに真剣さを怠っていました。

数週間前から、マーストリヒト英語教会の聖書勉強会でwww.prayercourse.orgの動画を見ながら「主の祈り」を学んでいます。そこで「人は祈るために生かされているのではないか」など沢山の気づきが与えられ、Xさんについても（遅くて恥ずかしいのですが）集いの数日前から以上に真剣に祈るよ うになりました。

「こんなダメダメな私の祈りを神様が祈りを聞いてくれた」などと大それた気持ちはみじんもありませんが、強いて言えば私の祈りの方向転換を肯定してくれたような気がしました。

集いへの参加に乗り気でなかったXさんの救いに関しては、ただただ神様の憐れみ、Xさんと愛の交わりを持ってくださったお一人お一人、実行委員の皆様に感謝しています。

まだXさんはこのことをご家族の方に告げるのをためらっています。どうぞXさんの信仰が守られ、神様との関係を深めてゆくことができるようお祈り下さい。

子どもの魂に語りかける

井野　葉由美
北ドイツJCF牧師

毎年集いに参加させていただき、大きな恵みをいただいています。プレ大会で安藤先生が「すべての子どもが大人になるまで生きていられるとは限らない。だから子どもの魂に語りかけることが大切だ」と言われた言葉が深く残っています。

今年も子どもたちに関わらせていただきましたが、いつも、子どもたちから受けることの多い奉仕だなと感じています。「子どものように神の国を受け入れる者でなければ、決してそこに、はいることはできません。」（マルコ１０：１５）とイエスさまは言われましたが、子どもたちは、聴いたメッセージを、自分のこととして本気で捉え、自分の肉の想いと必死に格闘しているさまが、その表情に現れます。

その真摯な姿勢に打たれ、「私はこのように真剣に御言葉を聴いているだろうか」と突きつけられました。イエスさまの十字架を受け入れる事ができた子どもたちも与えられましたが、葛藤していた子どもたちのために祈りたいと思っています。

イエス様が中心にいて下さる時

シスター　ソハラ
ダルムシュタット・マリア福音姉妹会

今年のベルギーの集いに参加できるかどうか、ぎりぎりまでわからなかったのですが、最後の瞬間に神様からの「行きなさい！」が、3つの事実を通して語られました。一つ目は、車に同乗させていただくのが可能となったこと、二つ目は、岡田牧師からブックテーブルをもたせていただく許可をもらえたこと、三つ目は、参加費用が与えられたことです。そしてやっぱり、参加させてもらえてよかったです。今年も可能としてくださった主に感謝します。

愛するイエス様がいつも私たちの真ん中におられることを、今回も見せていただき、聞かせていただき、体験させていただきました。イエス様が中心にいてくださるとき、大人も子供も青年もお年寄りもみな幸せで、喜びいっぱいですね。この喜びに励まされて、それぞれの小さな、あるいは大きな日常生活のなかで、もっともっと周りにイエス様の愛を輝かせる者とされてゆきますように！

Shalom！

3/11について思うこと

村岡崇光

オランダ日本語聖書教会

今年の集いに2年ぶりに参加し、3年前と同じく3/11のことがプログラムの中で浮上した。細川牧師が個人的体験を通して、3/11の悲劇を契機として全国的のみならず、世界的に神の国が一つの土台の上に立っていることを新たに自覚された、という証には感銘深いものがあった。

と同時に、3/11については日本人キリスト者として心に留めなければならない他の面もあるのではないか、と考えさせられた。悲しんでいる者、苦境に立たされている者、ことにそれが同信の友であるならば、その悲しみをともに悲しみ、その苦しみをともに負う、という姿勢がなければならないことは論を俟たない。

片岡兄との邂逅と談笑

しかし、3/11は地震と津波とが惹起した災害である、という意味では天災であり、東北地方で津波に呑み込まれた死者たちについてはそう理解しても良い。しかし、福島の被害者、犠牲者は人災によるものであることに異論はないであろう。東京電力の予防策の不備によるものである。だが、原子力発電所があそこに建設され、何十年も稼働していた、ということについては東京電力だけでなく、歴代の日本政府、またその政府を支持して来た国民の大多数も責任を担わなければならない。

その国民の中には日本のキリスト者も多くいたのではないだろうか?安全神話を盲信し、生命の安全、創造者から託された自然環境の安全よりも、「安い」エネルギー、高い利潤、経済効果、「豊かな」生活を優先させて来た、そして、大都会住民が地方の寒村に危険をおっかぶらせて平然として来た、これは罪でなくて何だろうか?被災者たちを思いやる兄弟愛、博愛精神だけでは済まないのではないだろうか?

そして、現政府は、あれから3年しか経っていないのに、再稼働を国是として掲げており、国際会議の席上で(国際オリンピック委員会)、福島の問題は収束している、と臆面もなく嘘をつくような人物を日本は総理大臣として抱えている、そういう祖国の現実に我々日本人キリスト者はどう対処したらいいのだろうか?祖国の伝道がさらに強化されていく必要があるのは勿論であるが、魂を宿す身体の生存が深刻な危機にさらされている時、我々が伝道に「うつつをぬかして」いたならば、日本のキリスト教会は日本社会に対して存在意義を失うことにならないだろうか?

2011年3月17日のフランスの「ルモンド」紙に同紙と大江健三郎との間の対談が「我々は犠牲者たちに見つめられている」と題する極めて示唆に富む記事が掲載されました。その和訳をご覧になりたい方は私宛ご連絡ください。(muraoka@planet.nl)。

盗られたもの、得られたもの

荻野　正彦

プラハ・コビリシ教会日本語礼拝

盗られたもの、リュックサックごと　パスポート、チェコ長期滞在ビザ、カメラ、キーホルダー（息子からの誕生日プレゼント）、鍵一式、電子辞書、帰りの飛行機切符、ヨブ記解説書（集いで購入）、集いのしおりなど。

集いの帰り、飛行機の出発時刻まで時間があったので、アントウェルペン駅周辺をちょっと歩いてみようかなーと思い、駅前通りをまっすぐ行ったところの、銅像の周辺で起きた。1、2回泡スプレーでジャケットを濡らされたため、通りの端に行き、リュックをおろし、ジャケットを脱いでスーツケースに入れて、リュックの方を見たところ、無いっ。人の気配も感じず、えーっと目を疑った。幸いにもクレジットカード、携帯電話は盗られていない。

その後、警察に行った後、ホテル探し、駅前のラディソンホテルへ。それから、集いで運命的に同室になった、ブリュッセルの中山さんに大使館で助けてもらえるかなー？兎に角、早く帰らねばならない・・と思い、中山さんにヘルプを求めた（初めてお会いしたばかりなのに、ずうずうしいお願いをしてしまいました。また引き受けてくださって感謝です。）翌朝、中山さんから教えてもらった鉄道で、アントウェルペンからブリュッセルへ、また、ブリュッセル駅からは、ご一緒いただき、大使館まで連れていってもらった。その上、午前中いっぱいサポートしていただき、その翌日にパスポートが発給され、水曜日にはチェコに戻ることができた。さて、ほんとうにいろいろ考えさせられた。

1　盗人たちと私とどちらが救われるのか？
たとえ盗人たちでも、イエスの十字架の隣で十字架に架かっていた罪人が、イエスを信じたことで、救われたことを考えると、むしろ、こんな事で彼らを憎んだり、神も仏もあったもんじゃないと思ったりしていると、私の方が危なくなるなーと思った。

2　ヨブ記みたいに私を試されている？
集いで、ヨブ記解説書を勧められた際、「私　ヨブ記嫌いなんですよー」と言ってしまったが、まさ

か、ここらへんで、悪魔が私を試そうか？などと神様に具申して、神様がOK出したんでないでしょうね？そうだとしたら、やめてくださいよ、私はすぐころんじゃいますからと独り言。

今回の参加は一泊2日でしたが、伝道についての証、メッセージをいただくと共に、多くの方と友達になれたし、昨年お会いした方と再会ができた、というのがプラス。この事件もこれからのことを考えればマイナスじゃーないんですよね、神様、ということでプラス。やっぱりプラス。

翌日曜日、教会にて「盗人たちがイエスを知るようになりますように、私が彼らを赦すことができますように」とお祈りした。これ本当。恵みを受けに自らこの集いに参加した事と共に、神様からの一見、不埒のようなことも必ずプラスに変えられるということを信じていくということを学んだ忘れられない第31回集いであった。感謝です。

ハレルヤ・コーラス

工藤篤子
工藤篤子ミュージック・ミニストリー

今年の大会では、賛美チームへの申込者が少なかったので、土曜の午後の「賛美の夕べ」でハレルヤ・コーラスを歌おうかどうか、とても迷いました。また、例年歌ってきているので、マンネリ化するのもいやだなぁ、という思いもあり、しばらくプログラムの導きを祈りました。

そんな時、私は、ジェームスO.フレーザー（James O. Fraser 1886-1938）という、1906年に、当時のチャイナ・インランド・ミッション（現・ＯＭＦ International）から遣わされて、中国の雲南省のリス族に伝道したイギリス人宣教師の伝記フィルムを見たのです。フレーザー宣教師は祈りの人でした。多くの人々が悪魔崇拝をしていたリス族への宣教の働きは困難を極めました。彼自身、鬱病になり、一年間苦しみました。鬱病から少しずつ癒されてくると、彼は、多くの時間を祈りに費やすようになりました。そして、ある日、「祈ったことは、すでに受けた」という確信が与えられたのです。イギリスの母親も、信仰の友に呼びかけて頻繁に祈祷会を開き、熱心な祈りをもって彼を支えました。

今、リス族の80%がクリスチャンです。伝記フィルムの最後は、リス族の大勢のクリスチャンたちが、民族衣装を着て、中国語で、しかもアカペラで、ハレルヤ・コーラスを歌っているシーンで終わっていました。

ハレルヤ、全能であり、私たちの神である主は
王となられた。ハレルヤ！
この世の国は、我らの主と、そのメシアのものとなった。
主は世々限りなく統治される。
ハレルヤ！王の王！主の主！
主は世々限りなく統治される、ハレルヤ！

感動で涙が溢れました。そして、欧州キリスト者の集いの賛美チームも、人数は少なくとも、声を合わせて、王の王、主の主であるメシアをほめたたえ、限りなく続く王国を宣言したいと思いました。

その数日後、急遽ベルリンの鈴木のぞみさんが大会に参加されるというニュースが届きました。ベルリンのルター派教会でカントール（教会音楽監督/専属オルガニスト・指揮者）として働いていたのぞみさんは、7年前に脳出血で倒れました。欧州中のクリスチャンたちが祈りの手を上げました。

しかし、ここ2年ほど、彼女のニュースが途絶えていました。今どうしているのだろう、そう思っていたところに、何と、のぞみさんが集いに参加して、賛美チームで一緒に賛美したいという知らせが届いたのです！そのニュースを聞いて、また涙！そして、以前、のぞみさんが、集いでよく指揮をしておられたハレルヤ・コーラスを、ここまで彼女を回復させてくださった全能の主に、共にささげさせていただきたいと思いました。（写真：左から４人目）

のぞみさんは、8年前と同じ、大輪のバラのような美しい笑顔で集いに現れました。そして、彼女の口からは、いつも神様への感謝が溢れていました。「感謝！感謝！」「神様って、ほんっとに素晴らしい！」「よかった！」「ありがとう！」・・・。「賛美の夕べ」のプログラムの中で賛美した、ヘンデルの『サラバンド（わが主イエスを信じる限り）』の、「悲しみと試練の中で、主は私をつくり変える」という歌詞の証しを、のぞみさんの姿に見る思いでした。

最終的に、多くの方々が賛美チームに加わってくださり、今年も声高らかに、「ハレルヤ・コーラス」を、主の主、王の王であるイエス様にささげることができました。ハレルヤ！

信仰生活への励まし

冨永重厚

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

今年もベルギーでのヨーロッパ・キリスト者の集いに参加出来ました。主催教会であるブリュッセル日本語プロテスタント教会の皆様が小さな群れにも拘わらずどんなに祈りつつ準備をして下さったかは前回の私たちパリ日本語教会の経験から良く分かります。その祈りの結実を見させて頂き、主の御名を賛美致しました。

今年のテーマは「伝道＝私たちキリスト者の使命」でした。ヨーロッパ各地でそして日本での伝道をまさに担って下さっている牧師方がさまざまな聖書の箇所から伝道について語って下さいました。

特に田辺先生は欧州での２０年を超えるご奉仕の経験を総括されるように、欧州邦人伝道の重要性と特徴、特に超教派であることの意味、日本人教会ではなく日本語教会であることの意味を重く語って下さいました。

最終日の聖日礼拝のご用をして下さった盛永先生は、ヨハネの福音書４章のサマリヤの女に対するイエスの姿と、マタイ１８章の９９匹の羊を山に残して迷った一匹を探しに行く牧者の姿を通して「個人伝道」の重要性を熱く語って下さいました。今年の集いを通して今一度伝道の意味を深く考える時が与えられましたことを感謝致します。

そして、私が属したスモールグループは各欧州の教会で長く中心的役割を担って下さっている兄弟が多く、それぞれの教会のこれまでの歩みと課題を知る良い機会となりました。

更に一年に一度お会いする兄弟姉妹方との交わりもこの集いの大きな恵みと醍醐味であり、信仰生活への励ましを今回も沢山頂きました。

ただ、青年の参加が何時もに比べ極めて少ないことは残念であった。プレ大会に青年のプログラムが無かった故であろうか。来年は多くの青年達の姿があるよう祈りたいと思います。

この大会を主催して下さったブリュッセル日本語プロテスタント教会の岡田先生初めお一人お一人に心から感謝致申し上げます。一日も早くお疲れが癒され、これからの教会の歩みの上に主の豊かな顧みと祝福がありますように。

集いの歴史は私たち家族の歴史

馬場晶子

ロンドンJCF

毎年恒例となった我が家の集い参加です。最初に参加したのは1997年、生後10か月の次女を連れてのノルウェーの集いでした。その後数年間のブランクはあったもののほぼ毎年家族のだれかを伴って参加してきました。

子供たちが成長するにつれて参加人数に変動はありましたが、2011年イギリス地元での開催では、家族全員が協力し、参加しました。長男が結婚し、2名家族が増加し、それに日本から参加の妹も加わって9名でした。今年は私たち夫婦と長女と妹のみ参加で少し寂しい気がしました。次女が高校の友人たちとの旅行と重なり始めて欠席し、長男家族はアメリカへ里帰り、次男は仕事の移動日にあたり不参加だったためです。来年は何名の参加となるでしょうか？楽しみです。

集いの歴史は私たち家族の歴史でもあります。今年は主人の定年退職後始めての記念すべき集いとなりました。そして、毎年一度主にある兄姉との再会を楽しみにしています。ただ、年々懐かしいお顔が少なくなっていくのは寂しいことですが、反対に、成長していく子供たち、拡大する家族たちに再会できるのは楽しみです。退職した主人と私の今後の楽しみは集いで知り合ったヨーロッパ在住の兄姉を教会に訪ね歩き、祈りと交わりを共にすることです。

集いに参加するたびに思う一つは、この集いが信仰を持つ若者たちの出会いの場となったら、そのような場としてもっと用いられたらどんなに素晴らしいかということです。集いを通して、出会い、結ばれたカップルを何組も知っていますが。教会を一つの家族と考えたら、集いも大きな家族です。信仰の継承者である若者を育てていくこと、クリスチャンファミリーを増やし、育て、見守っていくことも集い全体の大きな使命だと思います。次女は集いで知り合った若者たちと今も連絡を取り合っています。互いに信仰を励まし合いながら、友情が育っていくのは嬉しいことです。

ロンドンJCFは伝道する教会として、40年以上ロンドン中心部で礼拝を守り続けています。昨年秋から7月までに5名の方が受洗されました。新来会者も多く、毎回の礼拝で協力牧師の先生がたによって、また、ロンドン滞在中はますます力と霊に溢れた盛永先生によって、命がけで御言葉が宣べられています。私も時を選ばず、今という出会いを大切に、神様の御言葉を伝えることに使命を持って生きたいと思っています。そのような時にとてもタイムリーなテーマの集いであったことを主に感謝しています。

少ない人数の中で素晴らしい集いを用意して下さったブリュッセルの教会の皆様に深く感謝し、その御労に対して主の豊な報いをお祈りいたします。

私にも出来る“伝道“

松尾照子
ケルン・ボン日本語キリスト教会

今回の集いでも沢山の霊の糧をいただき、参加して本当に良かった と思いました。テーマの"伝道"，これは牧師や老練の役員及び口達者で説得力のあるクリスチャンができることで、私のような自信のない者にとっては、人に確信を与えるよりつまずかせるだけだと、長い間勝手に決め込んでいました。

ですが今回の朝の祈祷会で、貴女は最後にイエス様の前に立たされた時、このことについてなんと申し開きするかと問いただされました。そして今 私の出来る伝道のことを考えてみました。 路傍伝道や接触する人達に個人伝道が出来なくても、先ず聖書のみ言葉を自分がしっかり受け止め、私 自身の信仰の思いが言葉や行いに現れ、 それを絶えず反射させる、 このことも 一つの伝導になるのではないかと思いました。

毎週教会に行っていても、嫌味を云ったり、他者を傷つけたりしていては伝導にはならない。 いつも清く善を心がけ、どんな状況に置かれてもイエス様の福音を語られる心の余裕を持つ、 先ずこのことを覚えて家族伝道から徐々に始め、 私が去った後、彼女は本当にキリスト者であったと、家族の者が言い切ることが出来るよう、努力したいと思いました。

今回の集いで一つ気になったことは、若い牧師さん達が説教後の祈りを、ピアノのバックミュウジックと共にすることでした。私は解き明かしの総括とも言える牧師の最後の祈りを、自分の思いと合わせて共に祈りたいと願っているのに，バックの音で集中できず、牧師がなんと祈ったかよく聞き取れないまま、アーメンと唱えざるを得ませんでした。 聞くところによると、音楽と共に祈ることは最近の傾向であるとか。 まさに世代の違い、柔軟性のない年令のこの者にとっては、今更 "ながら族"になるにはもう遅過ぎ、残念でした。

今回の“集い”で学んだ事

Schmitt 亜弥子
ケルン・ボン日本語キリスト教会

今回のテーマ、伝道については私にとっても、とても興味のある題でした。色々の説教、講演を聞き共通なことがあるのに気付きました。たとえば、対人関係で自分を変える事、自己中心ではなく相手を思いながら話し合う事、等。

聖書から私達はキリストの足跡を知ることが出来るので、日常生活の中でもっと聖書を読み又とりなしの祈りの大切さを、私は思わされました。

鈴木のぞみさん（中央）と

生きて働いておられる主

佐々木千恵子
シュトゥットガルト日本語教会

主を賛美いたします！＊集い３１＊あふれるほどの恵みをいっぱいいただき、ブリュッセル日本語教会の方々、そして、ご奉仕し下さった方々に心より感謝いたします。

その中でも、今回、胸が熱くなる涙の感激のひとつをお証しさせて頂きたいと思います。ベルリン在住の斉藤（鈴木）のぞみさんは、７年前の脳出血で倒れられました。それまではいつもキリスト者の集いに参加されておられましたので、ヨーロッパ中のたくさんの方々の必死なお祈りがありました。

ヴィッテンベルクでのキリスト者の集いのときは早天祈祷会で「のぞみさん」のために毎日全員でお祈りが捧げられ、ベルリンまでお見舞い行く方も何人もおられました。その沢山のお祈りに神さまは応えてくださいました。今回彼女は再び参加することができ、そして、賛美チームで歌っている姿には、神様を賛美せずにはおられない深い感動がありました。

ハレルヤ！生きて働いておられる主を賛美いたします。

安藤ファミリーの「集い」で感じたこと

今おかれている場で

安藤廣之

ミュンヘン日本語キリスト教会牧師

「伝道しましょう」ということを講壇から語る場合、その動機付け（御言葉をその様に説き明かす事）と実践面（この様に伝道できます）の両方が必要と思われます。

私はプレ大会で「子供への伝道」について話しましたが、そのバランスに気を使いました。ただし余り実践面が強調されますとなかなか伝道できない（と思う）人にはプレッシャーともなり、伝道できる恵みを見失うことにもなり兼ねません。今置かれている場で与えられた機会を生かして神と人とを愛し、仕えて行く者でありたいです。

子どもに与えられている賜物

安藤里佳子

今回は子どもプログラムの責任者の一人として奉仕をさせて頂き、沢山の恵みを頂きました。テーマは「出ていこう！イエスさまと」です。毎年テーマソングを選ぶのですが、なかなかぴったりした歌詞の曲が見つからなかったりして、考えている内にテーマソングが与えられました（作詞作曲）。

昨年の教職者研修会の時に葉由美先生と私達夫婦とで歌詞を直したりして、完成しました。葉由美先生が歌詞をよく考えて振りをつけて下さいました。私はこの10年程中高生・CS幼稚科小学科に関わってきましたが、今回の振り付けはCSでは過去数年の中で一番難しいものだったと思います。それなのに、子供達は短時間であっと言う間に覚えてしまいました。子供達に与えられている神様からの賜物は素晴らしい！ということで今年も新鮮な驚きを持って、子供達と一緒に過ごさせて頂きました。

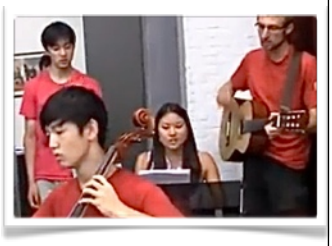
輝きを持った信仰へ繋げたら

安藤みずき

私は今年、中高科の参加者でもありスタッフでもありました。中高科プログラムでの賛美のキーボード伴奏をしたり、スモールグループをリードしました。

土曜日の夜、賛美と証しの会で私は証しをした後、自分のすべてを打ち明けてくれる中高生もいて感動しました。今回の集いでの経験は私の信仰生活にとって大きなマイル・ストーンとなりました。

私はクリスチャンホームで育ち、自信がない信仰を持っていましたが、ある時、自分で信仰の決心をしました。中高生の中で、かつての私のような信仰をもつ人が多く、この集いをきっかけに、輝きを持った信仰へ繋げたらと祈りつつあります。



神様に賛美すること

安藤真菜

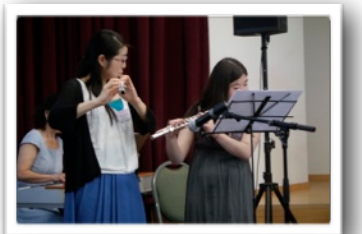
私は今年で２回目の賛美チームでの奉仕をやらせて頂きました。去年はユーオーディアの方々がいて下さったので自分が間違えても、他の方々がカバーしてくれると思っていました。今年も当然、ユーオーディアの方たちが一緒に演奏してくれるのでは、と勝手に思っていました。

それもあって『賛美の夕べ』の曲以外は殆ど練習しませんでした。しかし集い当日、メイン会場に練習に行くと他に楽器の方がいませんでした。私はびっくりして、Kさんに「他の楽器の方はまだいらっしゃらないのですか？」と聞くと、「最初からいませんよ。」と当然のように返って来たので「ああ私は一人で楽器を奏でるんだ。」と思いました。

それは同時に「私一人だから、間違えないようにしないといけない。」と思いました。ただ同時に私は神様から与えられた自分の賜物が大好きなので、１人で演奏できることを神様に感謝しました。しかし浮かれ過ぎたせいか余り上手く演奏できず、少し焦っていました。そんな時、Kさんが賛美チームの皆さんにアドバイスしている言葉が頭に入りました。「間違えても良い。大事なのは神様に賛美すること。神様を想うこと。神様はちゃんと見てるから。」その時、私は何か熱い感情が湧き上がり「大事なのは、神様の為に賛美することなんだ。」と思い、自信が持てました。

そうすると先程まで少し焦っていた自分が嘘の様に綺麗意味を分かりやすく説明してくれました。そのおかげで私は心を込めて、感謝を込めて感情を音に表す事が出来ました。その時はすごく嬉しくて、本当に神様によって愛されていると思いました。

講演が終わった後に何人かの人に、「フルート、良かったよ。素敵だった。」と言って頂き、とても嬉しかったです。「やってて良かった。」と思いました私は普段、ちょっとでも間違えたり、計画通りにいかないと気にする方なので、神様は私が気にしないようにして下さったと思います。



全部の講演の時の演奏も、『賛美の夕べ』のNさんとのデュエットも、すごく楽しく喜びに溢れました。今でも脳裏に音楽が残って、たまに口ずさんだりします。最後の『ハレルヤコーラス』もホントにハレルヤ！！！で賛美ができました。来年も賛美チーム、やりたいと強く思いました。

又それぞれの講演のメッセージですが、去年は余り言われている意味が分からず、ただ聞いているだけでした。今年はそれも少しずつ分かって来て、とても考えさせられました。

去年は、未だ中高科を卒業したばかりのせいか中高科にいたくて、中高科の人達と食事をしていました。今年、１日目は、完全に大人の先生と一緒に食事をし、夜もMさんとO先生その他とも交わりをし、色々な話を聞きました。２日目も大人の方たちと食事をしました。でも夜は恋しくなって中高科の皆さんといました。本当は我慢するつもりでした。自分はもう２０代なんだから高校生とではなく大人の方とも交わりを出来なければと思います。

でも楽しそうに交わりをする中高科を横目でみると羨ましくなり、我慢出来なくなり、中高科に行ってしまいました。行く前は不安もありました。でも行って見ると、中高科の皆さんは暖かく迎えてくれました。そして最後の夜は又中高科にお邪魔させてもらいましたが、その時証し会をやっていました。私は途中からしか聞けませんでしたが、その中で昔から集いに来ている親しい友達の証しを聞きました。その子は長々と自分の過去をみんなにさらけ出して、恥ずかしがらずに話していました。それには感動しました。誰にも言えない辛く悲しい過去があったのです。～中略～『人はうわべを見るが、主は心を見る。（Ｉサムエル１６：７）』

その後私は３、４人のグループに分かれてお祈りをしました。私は前から集いで会っていた友達と今年で２回目という人と一緒に証しをし合い、お祈りをしました。最初は２人の過去をただ聞いていましたが、自分も似た様な過去があったので、私の過去も話す事にしました。本当は話すつもりは無かったのですが、知って欲しいと思いました。辛い過去があったから、こうして分かち合う事ができ、その人のことをもっと知れました。それを導いてくれた神様に感謝します。特に賛美できる喜び、神様に生かされている事、全てに感謝します。

確信が与えられた喜び

二宮美香子
ベルリン・テンペルホーフ自由福音教会日本語集会

初めての参加が第25回のルターシュタット・ヴィッテンベルグでの集会であった。2008年8月3日主日礼拝テーマ：「教会への挑戦、自分への挑戦」川井勝太郎牧師のメッセージは私の教会生活への改革をもたらした。「信仰によって新しくなりなさい！」の招きに立ち上がり、聖霊による力を体験した。

同年10月10日（第1金曜日）：第１回【証しの会・祈りの会】（2011年4月より日本語家庭集会と変更）参加者：6名（信者３人・他３人）発足提案者Ａ姉妹宅で始まった。多くの兄弟姉妹の祈りに支えられて、毎月２回の集会は今日まで休会することなく続いている。感謝！

【伝道】とは、神学を学んだ人、牧師や宣教師の任務との観念があった私は【信徒伝道】なる言葉があり認可されるものだと知った。それは安田安子姉妹に頂いた【この愛に促されて】信徒伝道者・阿部哲と霊満クルセード（野口和子著）である。読後、召天の阿部哲氏にお会いできなかった事を残念に思う。

今回、「無学な私でも神様のご用に用いられることは決して間違いではない。」と、大きな確信が与えられて喜びに溢れている。多種多様の視点から「伝道について」学べたことは大きな恵みであった。特に先生方のメッセージには励まされた。

地上生活,残り少ない今、与えられた場所で与えられた賜物で神様の栄光の為に用いられる喜びを独り占めにはしたくはない！また、兄弟姉妹との交わりを喜ばれる神に心から感謝したい。

最後に、このような素晴らしい大集会を担当された各教会に感謝し、主の祝福とお癒しが豊かにありますようお祈りします。

「賜物にはいろいろありますが、それをお与えになるのは同じ霊です。一人一人に、“霊„の働きが現れるのは、全体の益となる為です。“霊„は望むままに、それを一人一人に分け与えてくださるのです。（コリントの信徒への手紙一12章4節～11節・新共同訳聖書）

主にある多様性と調和

高橋　稔
パリ・プロテスタント日本語キリスト教会牧師

「見よ，兄弟が共に座っている。なんという恵み、なんという喜び。」
（詩編　１３３編１節　新共同訳）

上の聖句は、いつも「ヨーロッパ・キリスト者の集い」で感じます。新改訳や英語、ドイツ語など多くの聖書では「兄弟が共に住む」という訳になっていますが、新共同訳のこの「兄弟が共に座っている。」という訳は、「集い」の情景を表すのにはピッタリだな・・・と思います。

あのホールの椅子に腰掛けて、共に講師のメッセージに耳を傾けたり、輪になって感想を述べ合ったり、ロビーや食堂で初めての人たちと隣り合って座り、話し合ったりしたことは、忘れることの出来ない楽しい体験として、いつまでも心の中に残ることでしょう。

今回も有意義なメッセージ、賛美チームによる数々のすばらしい賛美、担当教会の様々行き届いた準備と配慮・・・いずれも心に残る多くの感動を受けました。

そして毎回思うことは、「普段は別々の国で、異なった環境の中で過ごしているヨーロッパ各地の日本人あるいは日本語を話すキリスト者が一年に一回集まって、主にある交わりを共にすることは本当に素晴らしい！」ということです。

単なる楽しい交流の時ではなく、普段、なかなか聞くことの出来ない講師の共通したテーマに関するメッセージを通して、「神のことばを学び合う」時は何にもまして恵まれる時です。また、初めての主にある兄弟姉妹と知り合う機会、同時に遠く離れている親しい兄弟姉妹に再会できる喜び、これらも何物にも変えがたい喜びの一つです。

例年のように、一般の成人向けの集会とは別に、別室で持たれていた「子ども」や「中高科」のプログラムもありました。それぞれに「楽しかった。とても充実していた！」という感想を聞きました。それも嬉しいことでした。その奉仕に当たってくださった皆さんの労に感謝したいと思います。

こういう大会では、いろいろな層の参加者があり、その層ごとに集会の持ち方やテーマも異なっていますので、全部を見たいと思っても、残念ながらそういうわけには行きません。

けれども例年のように、時々、「子ども」「中高科」が共に短い時間ではあっても大人たちのメイン会場に合流してくれて、歌や踊りや聖句発表を披露してくれたことは、とても素晴らしかったし嬉しかったです。

全体の中で若い人にも年配層にも共に楽しめる内容もいくつかあるでしょうが、やはり対象毎に関心も異なり、それぞれに適した集会の持ち方というものも必要だろうと思います。そういう点で「子ども」及び「中高科」が、同時に別の場所で持たれることはとても良いことだと思います。そして今後もそう続いていって欲しいなと強く思いました。

私たちが同じ神を信じ、同じ主イエスを救い主として仰ぐキリスト者であるとは言っても、各人の年代や経歴がそれぞれ全く異なっているように、その所属する団体も信仰の内容にもある程度の違いのあることも事実です。
使っている聖書も教会によって人によって「新改訳・新共同訳」というように異なっている面もありますし、日本語の他に、英語・ドイツ語・フランス語・・・と「他の言語の聖書を使っている」という違いすらあります。

これもヨーロッパならではの大きな特色でしょうか。「様々な違い、多様性の中にある一致！」素晴らしいと思います。

１９８４年にもたれた第一回目のテーマが「主は一つ、信仰は一つ、バプテスマは一つ」（エペソ書　４：５）というテーマであったことは、この会があるべき姿、これからも決して失ってはいけない大切な姿であると共に、大切な目標でもあると思います。そして、今後も主の栄光を表す者として共に励み、共に成長していけたら良いなと心から願います。

信仰と伝道の原点は祈り

ベイツ裕子

オランダ日本語聖書教会

祝福された修養会に感謝致します。沢山の恵みをいただけました。特に印象に残っているのは、女性による伝道のお証しでした。吉川姉は欧州に嫁いで来られた後、キリスト教社会の影響を受けられながら信仰を育ててこられ、現在伝道へと導かれていらっしゃるその経緯から学ぶことは多かったです。

田辺姉は、年齢をご公開なさり、私も大層驚きました。そして、シニアでいらっしゃるのにますます冴え渡る明晰な分析力及び思考力に感じ入りました。最近大病から回復され、その病が、くしくも私が以前罹った疾患と同じであることからも、大層励みになりました。

田辺姉が大病からよみがえられたことを主に感謝致します。高橋姉のお証しを拝聴し、私は信仰の根本から考え直す機会に恵まれました。

淡々とした静かなお声での静謐なお証し、「母の人生はトラクト配りと祈りでした。」のお言葉に、はっと致しました。信仰と伝道の原点はやはり祈りであることに気づかされ、今までの私の主に対する接し方を反省し悔い改めることができました。静かに、継続して祈り、主の憐れみを請い続けること、それだからこそ信仰を行動で示すことができるのだ、と気づかされました。

修養会の会場にはずっと聖霊様がおられ、聖霊様の助けとお導きで牧師先生のお説教を集中して拝聴でき、考えることができたように思います。普段の自分からは考えられないことでした。イエス様が心を素直にさせて下さいました。

実は、思いがけずスモールグループのリーダーを仰せつかり、「えらいことになった、」と密かに焦っておりました。しかし、初めてのリーダーで緊張しておりましたが、グループの姉妹方のサポートに支えられ、祝福された学びとなりました。感謝しています。

牧師先生方のお言葉は、それぞれとても印象深かったです。常々すぐに気が散る私が、いつになく集中して拝聴できましたのも、やはり主の助けがあったからに違いありません。「福音は命です。」「車庫にいても車になれるわけではない。」そして、カレーのお話。牧師先生方が、信仰の初心者であってもある程度理解でき、しかも親しめるお話をして下さったおかげで、スモールグループでの話し合いは活気に満ちたものとなったように思い感謝しています。

沢山の恵みがいただけたことにもう一度感謝させて下さい。いろいろな事情で修養会の参加が叶わなかった兄弟姉妹にも、どうぞ、主よ、同じ祝福を与えて下さい。

大切なのは一人一人の魂

冨永幹恵

パリ・プロテスタント日本語キリスト教会

「集い31」では敬愛します先生方、愛する兄姉がたにお会いでき感謝でした。ベルギーの岡田先生はじめ会員の皆様ありがとうございました。準備のため、たくさんの時間や労力を費やされたことと思います。主が豊かにベルギーの教会に報いてくださいますことをお祈りします。

グループの分かち合い、食事、自由時間などを通し、とても有意義な交わりの時が与えられました。皆様がそれぞれに与えられている場所でお一人お一人、励んでらっしゃることをもう一度しっかり教えられ、私も再スタートを切って励みたいと思いました。

伝道というチャレンジの大きなテーマに、大切なのは一人、一人の魂であり、心からの主に対するような態度で接することであり、継続であり、それゆえに人とのきっかけをつかむことでありましょう。それが出来ているかと問われることの多い4日間でした。小さいですが、いただいた炎を、消さずに灯し続けていけたらと思います。

神様とiPhone

伊藤政彦
オランダ南部日本語キリスト教会

今回、初めて集いの参加回数を数えて見ましたが、部分参加を含めると15回目の参加となりました。

今回は伝道がテーマでした。私の中では、どのように伝道するべきか、キリスト者として周りの方々にどのような言動をするべきかを学び取ろうとがんばっておりましたが、教えられたのは、参加者の少なくない方々が、何をするべきとかしないといけないとかを考えると言うよりは、ご自身の神様との経験、神様を知っている喜びを心から皆に伝えたい、他の人々も神様を知って自分と同じような素晴らしい経験をしてもらいたいと考えておられると言うことでした。みなさんにとっては普通のことかもしれませんが、私は気づいていませんでした。

スモールグループでも話しましたが、私は以前アイフォンをお嫁さんに買ってもらった時に、自分がアイフォンが他のスマホと違ってどんなに素晴らしいかを周りの人々に熱く語っていたことを思い出しました。アイフォンについては熱く語ることはできても、まだ神様については熱くなれていないです。

今回は神様を心から伝えたいという思いを与えてほしいなあと思う修養会でした。また、みなさんの生きた神様の証しを多く聞けたことは大きな恵みでした。

大胆に、そして確信を持って

ヘス明美
スイス日本語福音キリスト教会

今年もキリスト者の集いへ参加出来た恵みに、まず神様へ心より感謝をしたいと思います。毎年参加出来る事は主の恵みと祝福以外の何ものでもありません。

今年も沢山の学び、交わり、祝福を受けました。中でも３年前ベルギーから日本へ帰国された家族が、皆揃って元気にベルギーへ来てくれて、再会出来た事は、本当に大きな喜びでした！

４日間に渡り先生方によるメッセージや、その後のスモールグループでの分かち合いで、多くの学びと気付きがありました。特に自分が接する人達には愛を持って、多くの時間を用い、大切な人間関係を築いていく事、そして私達の救い主である神様の事をしっかりと伝道していく事の重要さをもう一度り学びました。これからも大胆に、そして確信を持って、主イエスキリストを語っていきたいと思います。

岡田先生、そしてベルギー実行委員の皆様には大変お世話になり、有難うございました！最初から最後まで全て守られて感謝しております。

豊かな交わりの四日間

ゲルスタ・アンドレアス
スイス日本語福音キリスト教会

今回、初めて'キリスト者の集い'に参加させて頂きましたが、本当に素晴らしい時を過ごすことが出来ました。四日間、私と同年代の若者を神様は恵みで満たしてくださいました。聖霊様が中高生の心の中に働いて下さっていること、そして、若者との交わりのなかで私の信仰も成長していくことを感じました。

先生方から、いまの時代にぴったりのお話を聴き、いろんなゲームを共に楽しみ、スモールグループでの豊かな交わりをしながら過ごした四日間を感謝し、心から神様を誉め讃えます。

この集いに参加するよう勧め励ましてくださった教会の皆様に感謝しています。

トムセン一家の証し

スイス日本語福音キリスト教会

そのまま皆でいたいなー

トムセン・マリア　泉

　ことし初めてキリスト者の集いに参加しました。とても楽しかったです！私にとって一番楽しかったことは、CSのフレンズタイムでした。

　ちいちゃいグループに分かれて、なやむことなどを話し合いました。私はミシェルちゃん、さくらちゃん、そうかちゃん、みちるちゃんと一緒のグループでした。先生は葉由美先生でした。お祈りもしました。葉由美先生はとてもやさしい先生です。イッピーの歌を歌うのも楽しかったです。

　イエス様を信じている、私と同じぐらいのとしの女の子たちがヨーロッパの日本語教会にこんなにおおぜいいるのはとてもびっくりで、うれしかったです。またどこかで皆に会いたいです。

　ベルギーの集いはとても楽しかったので、まだまだそのまま皆でいたいな～と思いました。」

また皆であいたいなー

トムセン・ペーター　有喜（ゆうき）

「ヨーロッパのキリスト者の集い」でいっぱい友達ができて、楽しかったです。かい君とけんせい君とゆうじん君とあき君でした。

　私の先生たちは、はづき先生と葉由美先生と里佳子先生でした。先生達が作ってくれたゲームもとても良かったです。例えば、ハンカチ落としです。また、皆に会えたら良いな~と思っています。」

このまんま続けばいいのにな－

トムセン・チャーリー

　ヨーロッパキリスト者の集いに今年初めて参加し、中高科のスタッフとして色々学びながらとても素敵な時間を過ごすことができました。セッションや賛美の時間、そしてゲームと罰ゲームの繰り返しをしていくうちにいつの間にかこの楽しい四日間が終わっていました。「あと一ヶ月位このまんま続けばいいのにな…」って勝手な考えはいったい何回頭に浮かんだのでしょうか、数えてる暇もないくらいに必死でみんなと遊びました。

　その中で僕にとって一番感動的で心に残ったのは最後の晩の証と感想の時間、そして、その後の祈りの時間でした。その時にできた安心して自分の心配や重荷について語れる空間、これは本当にどんな障壁も超えられるイエス様の愛を通してでしかできないと思います。その時に聞いたみんなの話を通して僕と似たような経験をした人が何人もいて、心強く感じ、改めて僕のキリスト者としての道のりがまだどれだけ長いのかを思い出させられました。

　集いを通して同じ年齢くらいの友達がたくさんでき、僕のことを祈ってくれてることを神様に感謝します。僕もこれから一年間皆の事を祈り、またプラハで会うことを楽しみにしています。

特上にぎり弁当頂いたような

トムセン千香子

　このたび私は初めてキリスト者の集いに参加させていただきました。期待を持ちつつも少しばかりの不安も抱きながらの参加でした。

　プレ大会から参加しましたが、安藤里佳子先生のCS奉仕者の為のワークショップは、とても勉強になりました。里佳子先生だけでなく、他の諸先生の御経験も聞くことが出来、ほんとうに内容豊富なワークショップでした。小さな子たちへ御言葉を伝えることの大切さと責任を改めて考えさせられました。

　本大会になると続々と参加者が到着され、その人数の多さに驚かされました。驚きながらも、これは色々な方とお交わりをもつ良い機会だと思い、食事の折は勇気を持って見知らぬ方の隣に座るようにしました。御陰で、多くの方々とお知り合いになり、時には貴重なお話しを伺うこともでき、主にある交わりの時間をもてましたことを感謝しています。

　今回の大会のテーマである『伝道』ですが、諸先生のメッセージは、それぞれに味わいと特色がありました。この短い期間に盛りだくさんのメッセージが聞けて、特上にぎり弁当を頂いたような満腹感に満たされました。

　とくに心に残った言葉は、最終日の盛永先生がおっしゃった、「福音を握っている者は、人を恐れない」という言葉です。人に福音を伝えるのに臆病になってしまう私には、大きな励ましのメッセージとなりました。

ちいさな証

偉大な神様の大陸の一部

初めてヨーロッパ・キリスト者の集いに参加して

トムセン・ハンス
スイス日本語福音キリスト教会会員

私にとっては初めての集いで、とても印象深い四日間でした。

忘れ難い思い出の一つは、アントウェルペンAntwerpenへの遠足です。遠足と言うよりは冒険と言った方が良いかもしれません。地図も知識も全く無く、方向も分からない５人（佐々木先生、野口先生、佐々木千恵子さん、トムセン夫婦）でアントウェルペンへ大聖堂を探しに参りました。頼みの綱は狂ったカーナビで、結局、目的地より遠く離れたところに到着してしまいました。

その後は一緒に来て下さった牧師先生二人の熱いお祈りのおかげもあり、親切な運転手さんの好意によって無料のバスに乗せていただいたりしながら、沢山さんの親切なベルギーの方々の案内により、やっとのことで大聖堂を見つけることができました。そして、遠足の目的、「フランダースの犬」で有名になったルーベンスの油絵の前に立ち、神様の御導きに感謝の気持ちでいっぱいになりました。

ルーベンス（17C)の祭壇画「聖母被昇天」

集いにおいての毎日の素晴らしい説教も心の中に響き続いています。川井先生、斎藤先生、盛永先生、等々、先生方のお話が宝石のように輝いていて、ルーマニアや青春時代の信仰や「伝道」についてもっと聞きたいというところで、集いはあっという間に終わってしまい、特に盛永先生の力強い伝道のメッセージは忘れ難いものとなりました。

仕事疲れのままベルギーへ向かいましたが、集いを通して、イエス様の素晴らしいメッセージに触れ、心身共にすっかり元気になって帰って来ました。そして、参加者の方々とは食事などの機会を通して沢山の出会いがあり、とても嬉しかったです。

スイスからの参加者と：オリエンテーションで。

その中で、日本での子供の頃の出会いに驚くような共通点を見出し、懐かしい思い出が沢山よみがえってきました。自分だけの歴史だと思っていた事が、実は沢山の兄弟姉妹のものでもあったと気付けて嬉しかったです。やっぱり私たちは一人だけで存在する者ではなく、皆、神様のネットワークの中に生きているのだのとつくづく感じました。

私たちは皆、ヨーロッパの数多くの日本語教会に集う者で、普段それほど大きくない集まりの中で神様を賛美しています。毎週こういうメンバーと一緒にいると、周りの「外国」に対して、我々日本語で賛美するメンバーは、孤島にいるような気持ちになる傾向があるかと思います。しかし、キリスト者の集いの体験によって明らかにされたことは、小さな島だと思っていたところが、立派な列島の一部であることだけではなく、実は、偉大な神様の大陸の一部であるということです。

やっぱり私たちは皆「境」を越えた、神様の素晴らしいコミュニティーのメンバーです。キリスト者の集いでの、私自身への一番大事なメッセージはそれでした。神様の世界は永遠に続く想像もできないほど偉大なもので、私たちは皆、その大事な一部になっています。そこは国籍、言葉、教会の大きさなどが関係なく、我々の神様にある兄弟姉妹の集いなのです。その集いに参加する事を許された幸いを心から感謝します。

愛する妻と念願の集いに初参加！

多角的視点に立った修養会

黒田 禎一郎
北浜インターナショナル・バイブル・チャーチ 牧師
ミッション・宣教の声 主幹

今回のテーマは「伝道」でしたが、まさしく聖書が初代教会時代から語り続けてきた主題でした。テーマにふさわしく、異なる角度からの講演、聖書の学び、セミナーなどが盛りたくさん企画されていました。時代は初代教会時代と異なり、グローバル化してきました。しかし、キリストの福音は昔も今日も必要です。その意味で、多角的視点に立ち修養会が企画されたことは、実に幸いでした。

欧州在住邦人にとっては、きっと一年に一度の貴重な修養会であったと思います。日本から参加した私たちにとっても、多忙な牧会生活から一時離れ静まる時間が与えられたことに感謝しております。多くの集会、セミナーがありましたが、それでも静思のひと時が与えられ感謝でした。良かった！で終わった修養会ではなく、私を含め各自が学んだ糧を今後のクリスチャン生活で、大いに生かされることを切に祈ります。

最後に、今回の責任教会であるブリュッセル日本語プロテスタント教会の岡田直丈（ベルギー）牧師はじめ実行委員の皆様に、心からの感謝と御礼を申し上げます。小人数のスタッフで、本当によく準備をしていただき御礼申し上げます。主の豊かな報いと祝福をお祈りさせていただきます。感謝します。

何という恵み

岡山敦彦
大分恵みキリスト教会牧師

主の御名を賛美します。

７月３１日～８月３日まで開かれたヨーロッパ・キリスト者の集いに、私たち夫婦も参加して、神様からの恵みを多くいただき、また主にある兄弟姉妹との再会や新しく主の交わりの友が与えられたこと等、心から感謝しています。

ヨーロッパ・キリスト者の集いが、多くの方たちのご奉仕によって続けられていること、とても嬉しく思っています。普段は散らされて、それぞれのところで礼拝を守っておられる方たちが、年に一度集まられることは何という恵みなのでしょうか。そのことを実感させられた今回の集会でした。

私は牧師という立場上、様々な集会では何らかの奉仕、務めがありますが、今回はひとりの参加者でしたので、気楽で、集会の恵みを満喫することができました。身も心も休息の時を与えられました。

集会の後、二人でフランスに移動し、ランス、リオン、ニースと巡りました。ランスでは、藤田嗣治のチャペルに行き、ニースではシャガール美術館に足を運ぶことができました。これからも続く「信仰の眼で読み解く絵画」の良い取材旅行にもなりました。現地に行って、本物の絵画を見ることは、特別な感動があることを今回も体験しました。

英語はほとんど話せない私たちですが、無事帰って来れたことは、神様の恵みであり、主は必要なときに助け人を送ってくださいました。今回ほど、神様の助けを身近に感じたことはありません。

「信仰の眼で読み解く絵画」も３巻まで出版できていますが、帰宅しますと４冊目のゲラ刷りが届いていました。神様が与えてくださったライフワークと思い、更に続けて出版できるようにお祈り下さい。

これからも続けて大分の地で、神様のため、教会のために励んでいきます。

主にある交わりが国を越えて一つに

野口恭一
尾張旭福音自由教会牧師

「しかし、聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、あなたがたは力を受けす。そして、エルサレム、ユダヤとサマリヤの全土、および地の果てにまで、わたしの証人となります。」使徒1章8節

主の御名をほめたたえます。この度、主の不思議な導きにより、ヨーロッパキリスト者の集いに参加させて頂き、私の思いを越えた祝福を頂きましたこと、神様に心から感謝しています。また、2年間にわたり集いの準備をして下さいましたブリュッセル教会の皆さんに心からの感謝を申しあげたいと思います。はじめてのヨーロッパ訪問で、この集いに参加し、一度に、ヨーロッパ各地に行われている宣教の働きを見聞きさせて頂き、牧師先生、宣教師の方々をはじめ、信徒の方々と親しく交わりをもつことができました。私にとってこれはすばらしい恵みでした。

国を越え、教派を越えて、交わりができることは、とても新鮮であり、刺激的なものでした。また、様々な違いを乗り越えて、続けられてきた集いだけに、その交わりの豊かさ、深さに驚かされました。同じ主にある使命を担いつつ、各地で少人数ながら、教会、集会を守っているクリスチャンたちが一同に集まることは、これほどに励ましになることなのかと、うれしくなりました。それはキリストのからだのすばらしさです。

そして、ヨーロッパでの働きを身近に感じるにつれ、上記のみことばがより現実のものとして自分の心に迫ってきました。主の弟子たちの働きは、このように全世界に広がっている! そうみことばのとおりです。このような集いがこれからも続けられることを願いつつ、主が許されるならば私もぜひ再び参加したいと思います。また日本の教会、日本のクリスチャンのために、お祈りください。世界に散っているクリスチャンたちがともに協力して、宣教の働きが進められるように願っていますし、そのために互いのことを思いつつ、ともに祈り合えたらと思います。

キリスト者の集いとブルーリボンの祈り会

岩崎建男、三恵子
稲城聖書教会

私たちは、ベルギーに二回駐在し、八年間ブリュッセルに住んでいたことがありますので、懐かしい思いで、日本から参加させて頂きました。今回も、松林兄のお声かけで、「ブルーリボンの祈り会」を持たせて頂き、感謝致します。

私たちは、日本で七年前から「横田早紀江姉を囲む祈り会」(毎月第三木曜日２時４５分から、いのちのことば社)に参加させて頂いております。横田姉は「世界中で祈って下さることにより、人権問題として、拉致の問題が解決へと動くと思います。」とおっしゃっられ、ヨーロッパの皆様によろしく、とのメッセージと祈りの課題をお預かりしてまいりました。

皆様からの、横田姉への寄せ書きは、次回の祈り会で、お渡ししたいと思います。離れていても、心を合わせてお祈りできますことを感謝致します。

聖霊に満たされた聖日礼拝

浜島敏
善通寺バプテスト教会

今回の「集い」は、ベルギーのアントワープからベルギー鉄道で1時間ほど離れたレティーにある会場で開かれた。テュルナウトの駅を降りると、中山さんが、笑顔で明るく迎えてくださった。中山さんは、数年前のスモール・グループで一緒にさせていただき、以来定期的にメールをいただいている。

集いは、どの集会も、宣教に対する思いを新たにさせるに十分であった。特に聖日礼拝の盛永牧師によるメッセージは強烈であった。盛永節が炸裂した。私は、今まで数十回も盛永先生のメッセージを聞いたが、そのどれよりも力強いものであった。聖霊が先生を支配し、聖霊が会場全体に満ち溢れていると感じた。このまま会場が揺れ動くかと思うほどであった。年甲斐にもなく涙が止まらなかった。

伝道に対する先生の思いが伝えられ、皆を伝道への思いで圧倒した。私は、一瞬ペンテコステの会場で、ペトロから説教を聞いているような錯覚さえ覚えた。悪魔は、先生に語らせまい、あるいはその力を削ごうと、必死であった。メッセージの直前、先生の現金、カードを含む財布を隠したのである。しかし先生をうろたえさせ、失望させ、先生の力を削ぐための敵の努力は、見事に失敗した。(幸い、財布もみなさんの祈りによって、帰国前に見つかった)。カレブは85歳で元気であった。モーセは120歳で、目はかすむことなく、活力も十分であった。

先生は、伝道こそ、自分を満足させる食物であるとおっしゃった。先生にとっては、それは説教である。説教をしない先生は、 100歳の老人である。ところが、説教壇に立つ先生は若々しい70代(いやそれ以下)の青年である。先生には、ますますがんばって欲しい。先生は説教している限り、120歳までは大丈夫だと信じさせるに十分な「盛永節」を久しぶりに聞かせていただいた。感謝！

私たちは、今年は、7月から9月まで、ロンドンJCFで信徒説教者としてご奉仕させていただいているが、あの燃えるような説教をされる先生の霊の二つ分をいただけないものかと祈る。また先生には、もう一度ロンドンJCFの説教壇からも語っていただきたい。そして、これから続く「集い」でも説教者として続いて招いて欲しいと心から願っている。

ティンダル殉教の地を訪れて

私の研究課題である聖書翻訳では、ベルギーは欠かすことのできない一つの聖地だからである。近代英語に最初に原典から聖書を翻訳したティンダル殉教の場所である。アントワープで捕らえられ、ブリュッセル郊外のヴィルヴォルド城に幽閉され、大聖堂の前の広場において、 1536年 10月6日に、異端の罪で絞首・焚刑によって殉教した。

彼が聖書を翻訳したのは、ルターの翻訳からわずか2年後である。カトリック教国のイングランドでは聖書翻訳は許されず、大陸に渡って、ドイツにおいて翻訳し、アントワープのプロテスタント商人の船などの手助けによって、ロンドンへとどんどん密輸され、イングランド宗教改革の素地を作ったと言って差し支えない。そのティンダルがアントワープの自室から、フィリップという名の友人を装った裏切りによって捕らえられ、ヴィルヴォルドに送られた。

1年あまりの幽閉の間にも、彼は病気に悩まされながらも、聖書翻訳への情熱は消えることなく、ヘブライ語聖書、辞書の差し入れを要求している。ティンダルの現存する唯一、彼の署名入りのラテン語による手紙が残されている。そしてその翻訳原稿が友人に手渡され、彼の死後マシュー訳として出版された。

彼の最後の言葉は「主よ、イングランド王の目を開きたまえ」であった。神はその願いに応えられ、その翻訳は、英語聖書の金字塔とも言われる「欽定訳聖書(ジェームズ王訳聖書)」に70%がそのまま残されていると言われる。

今、ヴィルヴォルド城跡の近く、牢獄(当時のものではないが)の後に、プロテスタント教会が置かれ、ティンダル記念館となっている。そこの館長にメールによって面会を申し出ていた。それが31日の昼前であった。それで30日に到着し、31日のプレ大会は、失礼して、ヴィルヴォルドの教会を訪れることにしていたのである。ところが、直前になって、30日の方が、都合が良いことが分かり、幸い29日にベルギー入りをしていたので、30日の午前中に訪れることができた。資料を詳しく説明していただき、さらに処刑場、記念碑など、町の案内をしてくださった。感謝である。彼は10月4日に処刑されたが、その日は、今もこの町で記念されている。

集いの思い出

中山博幸
ブラッセル日本語カトリック教会

会期中はベルギーには珍しく、まるで神様が集いを祝しているように好天気が続きました。今は集いの熱気が去ったせいか、８月とはいえ気温が２０度以下で雨がちな日々、何となく秋を感じます。

私は今回６回目の参加ですが、毎回主にある大勢の兄弟・姉妹と共に礼拝しお交わりを持つことができ感謝です。賛美チームに加わり、たくさんの賛美歌を歌うことができたことは大きな喜びでした。

世界各地、日本・アメリカ・ヨーロッパから集い出会うことにより、みんな主イエスによって繋がっていることを実感します。今回は「伝道」がテーマでした。日々祈りながら生活し、正直に真心をもって身近な人々と接することが伝道の第一歩であることを学びました。

主によって繋がる兄弟姉妹と

異なる賜物が集まりて

神田望美
ブリュッセル日本語プロテスタント教会

ブリュッセル教会はメンバーも少ない小さい群れで、今回の集いは実行委員は5人でした。集いに参加出来るメンバーも、日本の支援会からのご夫妻2人と、普段から交わりを持っているブリュッセル日本語カトリック教会の方お一人だけだったので、当初は色々不安もありましたが、祈りの下、当日までには準備も一通り済み、無事に集いを迎えることが出来ました。

今年に入ってから、段々集い準備のための時間が多くなり、3月、4月は自分のお仕事の方で忙しく、準備をするのも大変でした。4月は私が日本に帰っていたこともあり、とても大変な時期をブリュッセルにいらした実行委員、教会メンバーに大半を任せることになってしまい心苦しく感じました。7月は正に自分の仕事、家事etcと合わせるとテンテコ舞いという言葉が相応しかったかと思いますが、夫の理解と支援もあり助かりました。

そして最後まで実行委員会会議でも笑顔があったことは、本当にメンバー皆さんの信仰の表れで、祈りの下に準備が出来たからではないかと思っています。最終会議には日本からいらした支援会のご夫妻も加わり、集いを主催するという特別な空気の中で強い交わりの時が与えられたことは大変な感謝でした。

私自身は過去の集いにおいて、御言葉シャワーと貴重な交わりの時を与えられ、とても充実した日々を過ごしましたので、今回もいらっしゃる皆さんに素晴らしい時間を持って頂きたいという思いが原動力となりました。集い中も人員不足からいつもバタバタしていましたが、皆さんの笑顔や、言葉が心から嬉しく、縁の下の力持ちになれる恵みはとても素晴らしいものだと実感しました。

実行委員5人で出来るのかな？というのももちろんありました。ですが、神様はその部分でもきちんと準備してくださいました。たった5人という少ない実行委員の中にも、ドキュメント作りに強い人、数字に強い人、PCに強い人、事務作業に強い人、細かい機転がきく人、進行が上手な人…それぞれが賜物を与えられていました。私はこと数字に弱いので、私が5人集まっても到底無理なことなのは明らかですが、違う賜物を持った人が集まりお互いに助け合うことが出来たことも、やはり大きな恵みだと思います。

そしてプレ大会やCSのために、加藤たくみ先生、安藤里佳子先生、井野葉由美先生、そしてプログラム全体においては賛美チームの方々などにも沢山助けて頂いたこともあり、実現することが出来ました。本当に全てに感謝です。

私たちは主に在って一つ

牧師　岡田　直丈
ブリュッセル日本語プロテスタント教会

尊い主の聖名を崇め、心より讃美いたします。

この度は、主の憐れみと敬愛する主に在る兄弟姉妹の皆さまのお祈りとご協力により、ベルギーでの「集い」の準備と開催が守り導かれ、祝されましたことを、心より感謝しております。ブリュッセル日本語プロテスタント教会は2006年春に発足し、2010年の「集い」の代表者会議において今回の「集い」の主催教会となることが決まり、昨年秋から一年間本格的な準備を進めてきました。4年前のメンバーの多くは本帰国することが既に分かっていたので、今回の「集い」の準備はその後に主が本教会に与えて下さるメンバーにかかっていました。

そして主は新しいメンバーを与えて下さり、少人数でありながら、小生を含め5名の実行委員と教会メンバーと元集会メンバーの岩崎建男兄・三恵子姉ご夫妻、ブリッセル日本語カトリック教会世話人の中山博幸兄が本当によく準備とご奉仕をして下さいました。心より感謝しています。また、外部の方々の篤きお祈りと尊いご奉仕によって、この「集い」の準備と開催が支えられましたことも併せて心より感謝申し上げます。講師の先生方、「幼小科」「中高科」「讃美チーム」の責任者とご奉仕を担って下さった方々、SGリーダー、ベビーシッター、パワーポイント事前打ちこみ、パワーポイント操作、メディカル、カメラマン、ビデオ撮影と編集（いつも素晴らしい撮影と編集をしてこられた松林幸二郎兄に感謝！）、オーディオ操作、タイムキーパー、メッセージ翻訳などのご奉仕を担って下さった方々に重ねて心より感謝申し上げます！

私は「集い」主催教会の牧師として、今回ほど「ヨーロッパ・キリスト者の集い」が欧州ならびに日本の主に在る兄弟姉妹のお祈りとご協力によって支えられていること、私たちが主に在って一つとされていること、見えざる一つの霊的なキリストの御体であること、「キリストの力は弱さの中でこそ十分に発揮される」（Ⅱコリ12:9）ことを痛感したことはありません。

今回の「集い」のテーマ「伝道＝私たちキリスト者の使命」の各セッションで学び分かち合ったことが、今後、私たち各々の教会生活と信仰生活の中で十分に活かされることを心より祈り願います。敬愛する主に在る兄弟姉妹の皆さま、真にありがとうございました！来年のプラハでの「集い」の準備と開催が守り導かれ、祝されますよう、心よりお祈りしております。

ブリュッセルより　主に在るお交わりに心からの感謝をもって、祝福を祈りつつ…